

校 歌

作詞 亀山 久雄
作曲 永井 幸次

しらくもはゆーる はちようの
ほうとうちとせ かがやきて

みーねーにとーきーわの いろふかき
だいしーのいぶきーさながらの

まーつのひーかーりの てるとーこーろ
くおんのさーちーをーひろむべーく

まんだのしょうごんきわまりーて
さーゆるりけんをてにーとりーて

ほうりんとはに さかえつーつ
じちようみちびく しとーわれーら

しんーりのとうぞーそびえたり
つどーひてまもるーのりのしろ

われらーのーだいがく こうやさん
われらーのーだいがく こうやさん

(I) 白雲映ゆる八葉の
嶺に常盤の色ふかき
靈松の光りの照るところ
曼荼の莊嚴極まりて
法輪とはに榮えつつ
真理の塔ぞ聳えたり
われらの大学 高野山

(II) 法燈千古かがやきて
大師のいぶきさながらの
久遠の法悦を遍むべく
冴ゆる利剣を手にとりて
時潮みちびく使徒われら
集ひて護る法の城
われらの大学 高野山

(III) 朝に靈鳥の声澄みて
夕べは星の光透り
清流玉川とこしへに
ささやく凡聖不二の声
槇の葉わたる微風にも
菩提無上の響きあり
われらの大学 高野山

(IV) ああ石楠木の花のいろ
紅そめて咲く見れば
遺告胸によみがへり
人と時とを醒すべく
文化の調べ高らかに
平和の礎固めなむ
われらの大学 高野山